

平成30年度 第1回 高山市総合教育会議 議事録

【日 時】 平成30年9月5日（水） 13時30分～15時00分

【場 所】 高山市役所 3階 行政委員会室

【出席者】 (構成員) 高山市長 國島 芳明  
教育長 中野谷 康司  
教育長職務代理者 針山 順一郎  
教育委員 打江 記代  
教育委員 野崎 加世子  
教育委員 長瀬 信  
教育委員 白田 美樹

(構成員以外の出席者)

企画部長、教育委員会事務局長、市民活動部長、福祉部長、商工観光部長、企画課長、教育総務課長、学校教育課長、文化財課長、学校給食センター所長、子育て支援課長、協働推進課長、生涯学習課長、スポーツ推進課長、健康推進課長、企画係長、教育総務係長、企画課職員

【会議内容（次第）】

- ・市長あいさつ
- ・教育長あいさつ
- ・議題
  - (1) 前年度までの開催状況について
    - ・資料① 高山市総合教育会議の開催状況
  - (2) 児童生徒等の重大事態に備えた対応について
    - ・資料② 児童生徒等の重大事態に備えた対応
  - (3) 教育大綱の推進に向けた平成30年度の主な取り組みについて
    - ・資料③ 教育大綱の推進に向けた平成30年度の主な取り組み
- ・閉会

【議事要旨】

市 長 議題（1）前年度までの経過並びに、議題（2）児童生徒等の重大事態に備えた対応について、事務局より説明をお願いします。

企画課長 (資料①、②について説明)

市 長 重大事態に至る前の事象について報告願います。

学校教育課長 市では独自に長期欠席が20日の段階で市長に報告しています。学校でもいじめ対策委員会をその時点で開催し、第三者委員にも参加いただいたうえで対応しています。今のところいじめ等による長期欠席が30日に至る案件はございません。

市 長 このことにつきまして、ご質問、ご意見等ありましたらご発言をお願いします。

野崎委員 児童生徒等の重大事態調査委員会の設置は大変ありがたいと感じています。子どもの命が一番大事であり、調査委員会ができたことで早めに察知できるのが重要なことです。委員の方も良い先生ばかりで、委員会で話し合われた結果などを私たちや市民にも周知いただくなど、今後の方向性が大事であると感じています。

打江委員 発達障がいに対する取り組みを大切にしていきたい。発達障がいを小さいうちに見つけ、理解をしていくことが大事で、社会で活躍する能力を養うことが大切と感じています。

福祉部長 発達障がいに対しては、環境に左右される部分も大きいので、そのような部分を重要視して取り組みたいと思っています。

学校教育課長 学校現場では、子どもたちの達成感、貢献感を大切にしており、子どもたちに対し、居場所ややりがい、人から認められる価値のある人間であることをわかってもらえるような指導をしています。加害をするような児童生徒に対しても、家庭環境や居場所を見いだせないでいるといった部分から関わっています。発達障がいについては、調査委員の橋本先生に関わっていただいております。保護者や学校に対しても適切な指導を行っていただいております。

長瀬委員 いじめ防止基本方針策定の検討がされていますので、以前にもお話したように、未然防止の取り組みが大切と思っています。

白田委員 毎年、久々野保育園の療育の現場で意見をお聞きする会があり、参加しています。発達障がいのお子さんを持つお母さん方の、発達障がいという事実を認めたくないが、そこを認めて乗り越えていく強い姿勢を見て、私たちも頑張ろうと感じています。委員の橋本先生が発達障がいの取り組みを重視していただいているのは大変心強いことで、お母さん方は発達障がいの子の就学や学校での様子について悩んだり心配してみえ、そういったところをくみ取ってもらえるのはありがたいと思います。

針山委員 過去3件ほど、いじめ不登校の案件に立ち合わせていただくなかで、保護者が拒絶するのが大きな問題であると感じました。近年、学校に対して拒否反応を起し、学校へ苦情を言われたり、学校を敵視するような過保護な親が見受けられ、学校だけでなく福祉や子育ての部門が連携して関わっていくようにできると良いと思います。  
不登校になる子たちに対しては、学校だけではなく、福祉課、生涯学習課、まちづくり協議会などで居場所づくりに取り組んでいただきたい。今後は、民の力が必要であり、ネットワークを作っていくことが不登校の子に手を差し伸べる重要なことと感じているので、充実していただきたいと思います。

子育て支援課長 早期からの対応についてはまさにそのように考えており、早めに課題がある子を見つけ、早い支援を行うことができるよう保健師との連携を強化したいと考えています。久々野保育園の懇談会については毎年様々のご意見をいただき、市としても考えさせられる場となっています。障がいをお持ちの子の保護者が、社会の理解がないことを悲しんでおられ、寄り添って支援をする必要があると思っています。悩んでいる親に伴走型の支援をしっかりと行うことで、子どもの小さいうちから信頼関係を作り、学校へつないでいくことで、親と子の支援をしていきたいと考えており、福祉、保健、医

療、教育の連携が求められていると感じています。全庁的にも議論は進めています、子どもの居場所が家だけというのは好ましくないと考えており、学校でも家でもない、自由に入出りできる第三の場所が大事で、まちづくり協議会でも考えていただいています。教育長の紹介された、久々野地域での寺子屋のような取り組みが、他地区のまちづくり協議会を中心に各地で始まっており、良いことだと思っています。それらの取り組みに各部局が支援して、広げていくことが重要と考えています。

協働推進課長 居場所づくりについて、まちづくり協議会では、空間的な居場所づくりと、子どもが活躍できる、気持ち的な居場所づくりの両方を大事にしていきたいということで、地域にサロンを設け高齢者も含めての居場所づくりや、中高生をイベントのスタッフとして公募し、彼らに任せることで地域のなかでの居場所づくりにつなげる取り組みも始まっているので、情報共有しながら全域で取り組みが進むようにしていきたいと思っています。

教育長 児童生徒等の重大事態調査委員会の設置は、子どもの幸せにつながることであり非常に大事なことです。スポーツ少年団でいじめがあったとき、それを学校側で気づいて、スポーツ少年団と連携して取り組んだことがありましたが、結局は困っている子どもたちを救うために、子どもの幸せにつながるよう、困難でもそういった連携を進めていかなければならず、そのような意味でもこの委員会が設置されたことは重要と感じています。

市長 次に、議題（3）教育大綱の推進に向けた平成30年度の主な取り組みについて、事務局へより説明をお願いします。

企画課長 (資料③について説明)

市長 ただいま説明のありました内容についてご質問等ありますか。

野崎委員 No. 6、食育・眠育に関する講座の内容について詳しく教えてください。

健康推進課長 7月に予定していましたが、豪雨で延期となり、今回は9月、11月に予定しています。健康推進課、学校教育課が連携し、NPO法人里豊夢わかさ理事長の前田勉さんを招いて眠育講座を開催します。睡眠に対する指導だけではなく、生活習慣を全般的に見直すことで心地よく眠り、心地よく目覚め、朝食をとり、一日の活力につながるといった内容をお話いただく予定です。

野崎委員 受講対象となる保育関係者は、保育園だけではなく、特別支援学校で行う放課後等デイサービスの保育士も対象としていただけるのでしょうか。

健康推進課長 参加者は限定せず受け入れさせていただきます。

長瀬委員 新規・拡充事業が多く、ありがたいと感じました。No.23の、特別支援員・保健相談員の拡充につきまして、「子ども一人ひとりに寄り添い、個性や能力を伸ばすこと」とは、一人ひとりをよく理解してあげることだと思います。勉強が得意な子、スポーツが得意な子、それらをよく理解したうえで対応することがとても大事で、このことが自己肯定感や有用感につながり、それが居場所づくりにつながっていく。このよう

なサイクルを考えた時に、さきほどの重大事態の未然防止にもつながると思いますので、拡充に向けて検討していただくようお願いします。

学校教育課長 2学期制がはじまり、子どもたちは前期・後期の2サイクルで、自分の夢や希望に向かってどう取り組むかの計画を一人ひとり持っております。今年度から、長期休暇前に行う3者懇談を充実し、子どもたちの自己評価をもとに、達成感、貢献感を持てるよう、対話を深めていくという点を重要視して進めています。

打江委員 大学連携の結果は、どのように市へフィードバックされているかをお聞かせください。

企画課長 大学連携センターに委託した調査結果については、フィードバックされて直接的に施策に結びつくという段階には、現時点では至っておりません。調査自体が3か年で行うため途中の段階というものもあります。久々野地区で実施した調査については、まちづくり協議会が、実際の事業を考えていくうえで活用したいということ、まちづくり協議会から大学側に声をかけていただいております、そういったことが他の地域にも起こるよう取り組んでまいります。また、実際の市の施策に直接結びつくような、まちのデザイン講座などはここ数年のうちに生きてくると思っています。

市長 例えば、高根地区では調査結果を地域の方に集まっていただいて報告したり、荘川でもそういったことが行われています。

企画部長 国府地区では、日本遺産を活用したまちづくりということで、連携センターがまちづくり協議会と一緒に活動していますので、今後各地でそのような動きが起こってくると期待しており、そのように進めさせていただきます。

市長 国府地区では、大学連携を起点にしてまちづくり協議会が自分たちでできることは何か、行政にお願いすることは何かということを考えられ、まちづくり計画のような文書をお作りになって市に提案していただいたような事例も出てきています。

針山委員 人的連携について、大学生に来てもらい高山の良さを知ってもらうような人的交流は行ってみえますか。

企画課長 例えば、現在、若者活動の拠点となるような施設整備に向けて取り組みを進める中で、市民検討会に高校生にも参加いただいております。そこへ、横浜国立大学の学生に来てもらい、ワークショップをするなど関わりを持っていただくことがあります。

針山委員 高山のいいところを知っていただくほかにも、若い方はいいアイデアを持ってみえる。

企画部長 先日、インターンシップで来られた学生が、4つの旅館を回られたあと、自分が働きたいと思うのであれば、こういうところを改善するというのは、という提案を発表された例があります。外からみえた大学生の現場体験の声が大いに参考になると思います。

針山委員 将来的には大学誘致ができればいいと思いますが、それも難しければ、大学生に滞

在していただき、高山の良さを知っていただくのも活性化に向けた一つの方策だと思います。

関連で、高地トレーニングセンターについて、青山学院大学で合宿されるなど利用されているので、整備していただいていたよかったです。また、ブラックブルズへの支援も大変ありがたいと感じています。No.36について、ゴルフのような、ニーズがあってもスポーツ少年団がないような競技に脚光を当てるのも必要と思います。ジュニアゴルファー育成の詳細と募集状況についてはどのようになっていますか。

スポーツ推進課長 おっしゃる通り、マイナーと言われるようなスポーツも幅広く知っていただきたいと思っています。当初はゴルフができるよう試行錯誤しましたが、やはり危険もあるということで、初心者でも可能なスナッグゴルフにさせていただきました。ただ、ゴルフ場で行うことで良さを知っていただけるように進めているところです。4会場1日づつで、現在募集中ですが、1会場20人程度で合計80人くらいの方に参加していただけるようにと思っています。

針山委員 スナッグゴルフからゴルフへと徐々に進んでいくので、ゴルフ場を利用する費用もかかるとは思いますが、ありがたいと思っています。

市長 ゴルフ場利用税として毎年数千万円いただいています。ゴルフもオリンピック競技になっており、若い人たちへの普及を進める必要があるということで始めさせていただきました。全国的にも小さい子どもにはスナッグゴルフから始めていただくような流れになっているようです。

白田委員 No.29若年層の健診受診の促進について、私の家庭でも夏休みに受診する予定で申し込みましたが受けられませんでした。実績はどうなっていますか。

健康推進課長 中学校では約半数ほどが受診されましたが、高校では数パーセントにとどまっています。高校生は夏休みも部活などで多忙なので、学校と協議し、学校で実施できないかなど検討し受診率を向上させたいと考えています。

野崎委員 高校生が成長段階で体を大事にすることは大切なことですので、そういった取組みもお願いしたい。

長瀬委員 高校生への周知はどのようにしていますか。

健康推進課長 飛騨3市1村で統一して作成したチラシを高校に持参し、各校長に配付を依頼し、趣旨をご理解いただくよう働きかけました。

長瀬委員 養護教諭の部会などで必要性を説明するなどしてはいかがでしょうか。

健康推進課長 養護教諭の集まりの場などで担当保健師からも依頼していますが、学校によって温度差が感じられる状況です。

打江委員 No.23の特別支援員と保健相談員はどのような違いがあるのでしょうか。また、11名増員されていますが、これで足りているのかもっと必要なか教えてください。

学校教育課長 配置基準を定め、それに従って配置しています。特別支援員は、特別支援学級に配置し、保健相談員は通常学級の子に対応するため配置しているものです。特別支援学校へ通う判定となったお子さんを、保護者の方が地元の学校へ進学させたい場合は、できる限り配慮させていただき、そのようなお子さんには支援員を一人配置するという基準としています。このような基準を今年度から設け、それに応じて配置したところこの人数になったもので、昨年度に比べて過不足があるということではありません。

市長 十分なのか、不足しているのか、どちらですか。

学校教育課長 現場の要望では、発達障がいなど支援が必要な子が増えており、増員を求める意見はあります。十分活用されているか、基準による配置がどの程度効果を上げているかについて検証させていただきます。

市長 ただいまいだいたご意見を考慮し、残り半年であります、より充実した事業が実施されるように対応をお願いします。  
ここで、委員の皆さんよりご報告があるということでしたのでお願いします。

針山委員 7月に、教育委員、校長、教育委員会事務局で、瑞穂市にICT教育の先進地視察に行ってきました。高山市はICT教育に関しては遅れていると感じています。代表して長瀬委員さんにご報告いただき、予算化につなげていただければありがたいと思っています。

長瀬委員 7月に瑞穂市へ、電子黒板の活用に特化して視察に行ってきました。  
文科省が平成22年に出している「電子黒板の活用により得られる学習効果等に関する調査研究」という報告書を、視察にあたり改めて見ましたが、子どもの意欲や理解を高めることに効果があるという項目について、「そう思う」と答えた教員は100%、子どもの表現や議論を高める効果や、思考を深める効果についても、「そう思う」と答えた教員が90%以上となっていました。現場ではどうとらえられているかという視点で視察させていただきましたが、どの授業でも電子黒板を上手に使っていて、子ども達も生き生きしていました。理科などの教科によっては有効に活用できていて、文科省の調査研究と同じような評価をさせていただきました。市としても財政的に許される限り、導入していただきたいと思います。導入には維持費も含め多額の費用がかかりますが、視察報告資料にありますように、1時間の授業でかかるお金が一人当たり10円弱という考え方をすれば、市として検討の余地があるのではないのでしょうか。また、電子黒板を1台だけ導入してもあまり活用されないのではないかということについて、電子黒板1台のみの配置では結局使いつらいため、全学級に配置したという点が印象的でした。参加した校長が、「率直な感想として、危機感しかない」と言っています。市が立ち遅れている現状を認識してほしいところです。

打江委員 視察先では、先生と生徒の信頼関係がありました。また、新しい時代の子どもたちが育っていると強く感じました。導入に関して、先生方を苦しめるのではなどの意見もあったと聞きましたが、教材づくりの面でも改善されて、働き方改革にもつながるものだと思います。子どもたちが生き生きとしていましたし、授業中に下を見る子がなくなったと聞きました。色々な面でお金がかかることもわかりましたが、今の時代を生きる子にとっては、良いものであると強く感じました。

- 野崎委員 不参加でしたが、お話を聞いて、特別支援学級以外でもタブレット端末を用いることや、電子黒板の使用は意味があると思いました。介護や医療の現場でもこういうものが整備されていないと対応していけない時代になってきています。環境が変わってきていますので、プログラミング教育についても、予算は大変だと思いますが市全体で考えていただきたいと思います。
- 白田委員 視察先では教室に入ったらとても明るい雰囲気でした。グループごとの討論でもタブレットを囲んで活発に行われていて、こういったツールを通じて意見が言いやすくなる子もいるのではないかと思います。
- 教育長 視察に参加した感想としては、委員の皆さんが言われたことと同じです。段階的にどのように整備していくかが大きい問題だと思います。
- 針山委員 財政的に厳しいとは思っていますが、ICT教育の推進やエアコン整備などについて、夢・まちづくり基金を財源として活用いただくようお願いいたします。
- 市長 校長会からの要望事項でもいただいておりますが、エアコン整備、ICT教育は私の公約にもあげていまして、その部分を確認されたものと思います。必要性は感じていますので、教育長、所管課と相談させていただきます。時代も変化しており、どういった方法がいいか現場と十分協議して、前向きに検討させていただきます。エアコンについては、教室数が多いことや普通教室だけでいいのか、職員室の設置はどうするかなど検討中です。
- 企画部長 活発にご議論いただきありがとうございました。以上をもちまして、平成30年度第1回高山市総合教育会議を終了いたします。